



# Pure 純 No.149 Pacific パ May.2010

純パの会会報『純パ』第149号

2010年5月29日発行

発行：純パの会

〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方

TEL & FAX.0426-52-1066

## 御礼 木村拓也様 谷口 武士(東京都中野区)

残念でならない。おつかれさまでした。

\*

貴方と初めて会った鴨川キャンプ、僕が自分の個人的都合で会いに行った初めての野球人です。

それまで四谷の「あぶさん」で数多くの野球人と酒を酌み交わすことはあったけど、そのどれもが僕のプライベートじゃなかった。

貴方は僕と同級生から頼まれたホントに個人的な関わりの人でした。

「タケシ君、あんたニッポンハムのファンやよね、今度ウチの近所の子で小さい頃から可愛がってる木村拓也っちゅうのが入るからヨロシク頼むわ。(宮崎)南高出の頭のイ子よ」

電話がキッカケ。頼むと言われても…… 僕に出来ることは何か？

\*

まずは会いに行こう！

ファイターズファンのオジサン、オネエさんを誘って春の鴨川キャンプに行きました。隣の駅の民宿に荷物を置いて球場に行ったら、そこら中に選手がウロウロしててナカナカ貴方を見つけられなかった。スタンドのネット裏にへばりついて観てたら、中西太臨時コーチが若い選手にバッティング指導してる。

当時、何でもかんでもヤジってた僕は、大きな声で

「そ〜だよ！中西さんの言う通りにやればイインだよ、打つだけだったらな！」  
ホームベースからジロリと見上げられました。

\*

練習終了して、タクシーで駅の方に向かってたら、信号待ちの僕らの横をタッタッタッタ、追い抜いて行く選手がいます。

「ア！五十嵐(信一)だ、オイオイ、こっからランニングでホテルまで帰るのかよ、スング〜！」  
当時は信ちゃんがそんなに練習の虫だということを知らなかったんです。

で、夕飯も終えた頃合いを見計らって二軍のホテルに向かいました。

入ったらすぐ、前田益穂コーチから「まだ子どもみたいなんばっかりだから、あんまり